

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4170500146		
法人名	有限会社ティーム		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ		
所在地	佐賀県伊万里市黒川町大黒川1393-16		
自己評価作成日	平成22年3月16日	評価結果市町村受理日	平成22年9月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	公益社団法人佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成22年4月6日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

健康管理や安全面に留意し取り組んでいます。
-----------------------

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

山間部の道路沿いにあり、周囲には森や田畑が広がる自然豊かな環境のなかに建つ、2ユニットのグループホームである。近隣に小学校や保育園があり、出入りが自由な中庭に出て、通学時の子ども達と挨拶を交わす等和やかな雰囲気ホームである。だんだんと入居者の身体レベルが低下し、活動の幅が狭まっている面もあるが、工夫を凝らしながらそれぞれの状態に応じた支援が行われている。また、ホームで自分の両親を看取った経験から、職員として働くきっかけとなった方が複数おられるなど、積極的な終末期の支援も行われている。
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	A棟	B棟		A棟	B棟
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	○
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	○	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	○			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 ユニット名(A棟)	自己評価 ユニット名(B棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践に向けて努力している。	実践に向けて努力している。	ホームの理念は職員全体で共有され、その実現に向け日々努力されている。また、会社名 "ティーム" = 仲間、という事で横のつながりを大切にし、お互いを助け合っていく姿勢を第一に取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	特別な取り組みはしていない。	特別な取り組みはしていない。	地域行事への参加、近くの小学校の運動会の見学、ふるさと祭りへの作品の出品等々、徐々に地域との交流が図られてきている。また、今後も積極的な関わりがもてるよう、計画が立てられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在ではできていない。	現在ではできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	次回の会議で活かしていきたい。	次回の会議で活かしていきたい。	H22.3月に開催され、家族、地元市議、市職員、区長、民生委員等の参加により、ホームの報告や意見の聴取等が行われているが、現在のところ定例の開催には至っていない。	2ヶ月に1度の開催を目指し、ホームの状況の報告とともに、意見・要望等を聞き取り、ホームの運営及びサービスの向上に活かしていく事が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話での連絡、相談を行い、協力関係を築いている。	電話での連絡、相談を行い、協力関係を築いている。	市の高齢福祉課を中心に、日頃より相談できる関係作りの構築に努められている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い、理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	勉強会を行い、理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	安全確保のため、一時的に鍵をかけたリ、ベッド柵をするといった事が、家族と話し合い同意を得たうえで行われている。身体拘束をする場合の取り決め、同意を得るための文書も用意されているが、書面での同意はとられていない。	やむを得ず拘束が行われる場合は、書面にて同意をとると共に、期間を決め改善のための会議を行い、拘束をしないケアを目指されることが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い防止に努めている。	勉強会を行い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 ユニット名(A棟)	自己評価 ユニット名(B棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	それらを活用できるように勉強会を行っている。	それらを活用できるように勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書をもとに説明を行っている。	重要事項説明書、契約書をもとに説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御意見箱を設置したり、面会や家族への連絡時にお尋ねし、反映させている。	御意見箱を設置したり、面会や家族への連絡時にお尋ねし、反映させている。	面会時、運営推進会議のおりに、出来るだけ家族からの意見・要望等を聞き取るようにされている。日頃からのより良い関係作りには、職員全体で取り組まれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員採用時など職員の意見も積極的に反映させている。	職員採用時など職員の意見も積極的に反映させている。	日頃から代表者及び管理者は、職員からの意見はできるだけすいあげ、検討するよう努められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の状況を把握し、個人的な評価や待遇に努めている。(処遇改善助成金の申請を行い、給与水準アップに努めた。研修旅行や食事会を行った。	職員の個々の状況を把握し、個人的な評価や待遇に努めている。(処遇改善助成金の申請を行い、給与水準アップに努めた。研修旅行や食事会を行った。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個々の状況を把握し、研修、勉強会の機会や個人的な成長の機会を提供している。	職員の個々の状況を把握し、研修、勉強会の機会や個人的な成長の機会を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネージャーの研修会に定期的に参加したり、グループホーム同志のやり取りを通して取り組んでいる。	ケアマネージャーの研修会に定期的に参加したり、グループホーム同志のやり取りを通して取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価 ユニット名(A棟)	自己評価 ユニット名(B棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前にご本人とのコミュニケーションを図り、本人の意向を尋ねながら安心を確保できるよう努めている	本人の意向や要望を確認しつつ関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する前にご家族との話し合いを持ち、希望されることに耳を傾けることで関係づくりができるよう努めている	家族の意向や要望を確認しつつ関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前にミーティングを行い、入居前の面接の情報をふまえ、まず、その時必要な支援を見極められるよう話し合っている	利用できるサービスは対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者がいてくださるからこそ私達存在できる事を心に留め、共に生活するもの同志の関係が築けるよう心掛けている	共に食事や家事を行い、共に暮らす関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とともにご本人を支えていけるよう健康状態等の変化については細めに連絡をしている	定期的に家族と連絡を取り、共に支援していく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	リハビリ通院の継続や、地域の散歩やドライブ等の支援を行っている	希望により、対応を行っている。	馴染みの美容室の利用、友人の訪問、家族との外出支援、入居者の地元方面へのドライブ等、できるだけ馴染みの関係が途切れないよう支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	耳や目もご不自由な方には孤立されないよう細かな情報伝達を行い、利用者同志の関わり合いが出来るよう支援している	ご本人のニーズに合わせ、関わり合い、また、支えあえるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 ユニット名(A棟)	自己評価 ユニット名(B棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご入院等で契約が終了しても、必要に応じて支援できるよう努めている	入院された時はお見舞いに行き、経過報告や洗濯の代行を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限りご本人が希望される暮らしができるよう、お一人お一人の思いを把握できるよう努めている	本人の意向を確認し、希望に添うよう対応している。	家族からの情報や、入居者との会話の中から、その思いを把握し、管理する事のないよう努められている。意向の把握が困難な方も、これまでの情報、表情により思いをくみとるよう努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の調査により出来る限りの把握に努め、入居後も情報収集に努めている	本人やご家族、又はサマリーなどで情報を集め把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人の心身状態を把握し、無理のない一日が過ごせるよう午睡を促したりしている	毎日バイタルチェックを行い、その日の健康状態を把握し、作業の支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に一度のモニタリングを行い、ご本人がより良く暮らしていただけるようにチームで話し合っている。また、ご本人や、ご家族の意見も伺っている	3ヶ月に一度のケアプランのモニタリングを行い、ご家族に確認していただき、承諾を得ながら介護計画を作成している。	入居者本人、家族の希望に沿いながら計画が作成されている。また、3ヶ月に1度全体での評価が行われ、計画の見直しも実施されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を詳細に行い、情報を共有すると共に状態の変化に即した介護計画を作成している	随時、介護記録を行い情報を共有しながら、介護計画の見直しや実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態等の変化に対応したサービスが即提供できるよう、ミーティングを密に行っている	本人やご家族のニーズに対応している。(結婚式の付き添い介助、葬式などの送迎など)		

自己	外部	項目	自己評価 ユニット名(A棟)	自己評価 ユニット名(B棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、ホーム内に閉じこもらないような生活が出来るよう支援している	社協の行事に参加し、暮らしを楽しむことができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人が希望される病院の受診ができるよう支援している	本人や家族の希望を大切に、医療を受けられるように支援している。	契約時に説明確認され、本人、家族の希望によりこれまでのかかりつけ医、もしくは協力医のもとで、適切な医療が受けられるよう支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	状態等の変化があれば素早く看護職の伝え、適切な受診や看護が受けられるよう支援している	看護職と連携が図れるよう、情報や気づきを速やかに伝え、アドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医や看護師長に報告、相談を行うと共にMSWとの連携も密に行っている	入退院時の情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に話し合いはもとより、重度化された時にはご家族と再度話し合いを行いホームでできることを理解していただくとともに、小島病院との連携により医療体制を整えチームで支援している	重度化や終末に向けた方針を伝え支援を行っている。	ホームの指針を入居時に説明提示し、確認をとられている。また、段階に応じた話し合いを持ちながら、協力医との連携のもとで、看取りも実際に行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時時の対応法、応急手当等の勉強会を行い緊急時に備えている	緊急時マニュアルを設置し勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間を想定した避難訓練を行ったり、水害時の避難について確認し災害時に備えている	年に2回の避難訓練を行っている。	年2回、日中・夜間を想定した訓練が、消防署立会いの下、実施されている。災害時の避難経路の確認も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価 ユニット名(A棟)	自己評価 ユニット名(B棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人を人生の先輩として敬い、人格者として尊重した言葉かけや、対応を心がけている	言葉を選び対応を行っている。	入居者への敬意を忘れず、やさしい声かけという事を目指し、職員全体で取り組まれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるようお尋ねしたり、個人個人が持つ思いや、希望が表出できるようお声かけしている	その都度、本人の希望を確認し対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人に応じた食事の時間や、希望に即した入浴が提供できるよう支援している	その都度、声をかけ、又確認を行ったうえで本人の思いを優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に洗面できない方はおしぼりを提供したり、整髪し身だしなみができるよう、お一人お一人に応じた支援をしている	本人に確認しながら、必要に応じて介助を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜や果物の皮むきをお願いしたり、おやつ作りを共に行い楽しんで頂いている。また、各人の力に合わせ、食後の片付けも共に行っている	楽しみながら、共に準備や片付けを行っている。	野菜の皮むき、後片付け、茶碗洗い、テーブル拭きなど、入居者の状態により、できる部分への参加を促されている。また、職員も同じものを一緒に食べながら、さりげない支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各人の食事の適量を把握し、また、各人の身体状態に応じた食事形態(おかゆ、刻み、トロミ付け等)を把握し提供している	個別に対応を行っている。又、必要に応じ水分チェックを行い量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各人の力に応じた口腔ケアを提供している	毎食後に口腔ケア誘導を行うがい薬を使用していただき、必要に応じ介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 ユニット名(A棟)	自己評価 ユニット名(B棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをつかみながらトイレ誘導を行ない、自立できるよう支援している	定期的にトイレ誘導を行い自立支援に努めている。	日中はトイレでの排泄とし、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握した誘導がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に心掛け、ヤクルトやヨーグルト、オリゴ糖を取り入れたり運動を行い、便秘の予防に努めている	水分量や食物繊維の多く摂れる食事の提供に心がけ、必要に応じ薬の服用、又は使用し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望や、本人の気分に配慮し、個々に添った支援ができるよう支援している	入浴日を決めてあるが、その日だけでは本人のニーズに合わない時があるため、確認を行いながら好きな時に入れるよう配慮している。	入浴は、入居者一人ひとりの状況に応じた対応がなされている。拒否される方も多いが、声をかけるタイミングに配慮したり、できるだけ入浴が楽しいものとなるよう支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を見ながら午睡を促したり、冬の間は湯たんぽを入れ気持ちよく眠れるよう支援している	本人に確認を行いながら行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を基に勉強会を行ったり、症状の変化に伴う薬の変化についてもその都度確認している	個別に薬の副作用が分かるように書き出し、いつもと違う変化を見逃さないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器の片付けや洗濯物たたみ等に役割を感じ張り合いを持って取り組まれている。また、ぬり絵や折り紙などを楽しみにされている方もあり、支援している	身体事情から、今まで出来ていた作業が出来なくなってきたり、会話や歌は楽しまれ、気分転換をされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭やホーム周辺の散歩をしたり、ドライブをしたり、天気の良い日はなるべく戸外へ出られるよう支援している。また、ご家族の協力があり1～2週間に1度日中の帰省をされる方もあり、ご本人の希望にそった支援ができています	殆ど外出を希望される方がいなくなっているが、天気のいい日などは庭でひなたぼっこをしたり、近所まで浜を見に行くなどの支援をしている。	季節の花々が植えられた中庭には、ベンチやテーブルも置かれ、昼食やおやつを外で摂られたり、散歩等が日常的に行われている。季節行事、ドライブ、家族との外出、受診等の機会も設けられている。	

自己	外部	項目	自己評価 ユニット名(A棟)	自己評価 ユニット名(B棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各人の力や希望に応じた買い物が出来るよう支援している	お金を持ちたいと希望される方がおられず、買い物の希望があるときは、立替で支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される時にはすぐに対応している。ご家族とも話し合いながら、対応している	希望があるときは支援しているが、現在は直接電話や手紙を書きたいと希望されることがなく、家族からかかってきた、電話の取次と必要な時に応じ、通訳を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの置物により、季節を感じていただけるよう配慮している。また、職員の声かけが混乱を招くことのないよう、正面から声のトーンに配慮したお声かけをしている	随時、室温と湿度の管理を行い、季節に合った置物で季節感を取り入れている。	季節の花々や季節ごとの置物が飾られ、声の高さや明るさといった刺激にも配慮されている。また、加湿器はもちろんオゾン発生器による殺菌、消臭が24時間行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファや椅子を置き、思い思いの場所で過ごしていただけるよう配慮している	自由に、食卓テーブルとソファに別れ、思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、出来る限りご本人のなじみの物を持ってきていただくようお願いしている	本人の居心地のよい居室づくりに努めているが、持参されていた椅子など転倒の危険があるため、居室に置けない事情も出てきている。	持ち込みは自由であり、馴染みのものを持ち込まれ、入居者が居心地良く過ごせるよう、家族とも相談しながら対応されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室に表示をし、出来る限りご自分で動けるよう配慮している。また、台所や洗面所などの見える範囲に危険な物を置かないよう安全に配慮している	車椅子を使用される方が多くなり、自走されている方が玄関より落ちそうになり、玄関のフロアを増設した。		